

6日目 岩村田-5.1Km- 塩名田-2.6Km- 八幡- 3.7Km- 望月-5.2Km- 芦田-5.5Km- 長久保
-7.4km-和田 合計 29.5Km

昨年 10 月 11 日に岩村田宿到着し、その後中断していた中山道ウォーキングを再開、4 月 17 日の早朝に北陸新幹線はくたか 551 号で東京駅を出発、佐久平駅着は 7 時 45 分、天候は曇り、約 20 分程歩いて前回到達した岩村田宿に到着。

岩村田宿 22 番目

岩村田宿は宿場としての遺構は殆ど残っていない、早朝でもありシャッターが降りている商店街のアーケードの下を歩く。歩道上のタイル絵は招き猫ならぬ招き狐で面白い。これは「百姓の嫁が田植えの手伝いを友達に頼み、田植えは無事済んだものの狐であることがバレそうになり、百姓と息子を残して消えてしまった・・・狐の女房」との言い伝えに基づくものらしい。また、商店のシャッターの絵の中で学習塾のものが面白かった。

岩村田の招き狐



学習塾のシャッター



岩村田宿の外れに、和宮が休憩して野点をしたと言う相生の松があり、男松と女松が同じ幹から出ているのということで有名だったが、枯れてしまい現在は 3 代目。松の手前の碑の歌が分からず、ネットで調べたところ、「其むかし業平あそむの尋ねけん おとこ女の松の千とせを」とあった。因みに、相生の松は日本全国に沢山あるそうで、縁結び、和合、長寿の象徴だとか。

塩名田宿の手前に、重要文化財、駒形神社とあり、石段を上がって鳥居をくぐるとなやら H な感じの石があって、「子宝の神様 福招きの石」と書かれていた、なるほど。

相生の松



福招きの石



塩名田宿 23 番目

時折雨がパラパラと降り、傘をさすほどではないが寒い。塩名田の宿にはいると、街道に面した家には、かつてそこにあった建物の屋号の看板がかかっている。最初に目を引いたのは「釜鳴屋」、一体何の商売かと思って良く見ると茶屋と書いてあった。さぞかし釜をシュンシュンと鳴らしたのだろうな。この宿場は旧家が多く、本陣も残っている。中でも目を引いたのは佐藤家住宅、2階の窓の下の出っ張りが湾曲しており、年月を感じさせる。

釜鳴屋の看板



問屋本陣



佐藤家住宅、2階の窓の下が湾曲している



千曲川

塩名田宿は千曲川の渡し場でもあり橋がかかっているが、昔は橋をよく流され、徒歩や舟で渡ることも多かったという。

川原に立札があって、「舟を繋いだ舟つなぎ石はどれでしょう?」と書かれていたが、分からなかった。

千曲川



御馬寄(みまよせ)の大日如来

千曲川の対岸は御馬寄の集落で有名な大日如来がある。田んぼの中にある大きな石像で、いつも白い頭巾を被っており、観光パンフレットでよく見かける。パンフレットではこの石仏の目に特徴があるが、その肝心の目は頭巾で隠れていた。

右はネットで見つけた写真で“目”が写っている。

大日如来の隣に芭蕉句碑がある、「涼しさや直に野松の枝形(なり)」。



御馬寄の大日如来



八幡宿 24 番目

八幡宿の本陣跡



八幡宿には本陣跡の門が残っているだけで足早に通り過ぎる

百沢の祝言道祖神と石仏

百沢の集落にあるのが、祝言道祖神で、説明板には、「祝言道祖神は長野県安曇地方で発生した道祖神で、宮廷貴族の装いをした男女が酒を酌み交わす華麗な祝言像である。安曇系は主尊が日本神話の神々で、着衣も神々の装束で造像されるのが通例であるが、この道祖神は宮廷貴族風の精緻な造像である。発祥地安曇地方にも類例の無い貴重な遺産である。」とあった。確かに、服装だけでなく、男性の方は細面で貴族的な感じがする。

祝言道祖神



この祝言道祖神と同じ敷地にあった石仏(観音像 or 女神?)の表情が良かった。

祝言道祖神のそばにあった石仏

山にさしかかり、登っていくと「融雪基地」の建物が目を引いた。 さぞ雪が多いのだろうな、と言うことと、今登っている坂道が急勾配で、スタッドレスタイヤでは滑って登れないので融雪が必要な時が多いのだろうな、と考えた。 この建物の中には何があるのだろうか？

山の頂上には「瓜生坂」の石碑があり、その石碑の横に石仏と「百万遍念仏塔」があった。これは「百万遍とは「南無阿弥陀仏」を百万回唱える念仏行事である。念仏の回数が多いほど 功德があると信じられ、その達成を記念して造立されたもの」とのこと、カウンターの無い時代に 100 万回をどうやってカウントしたのだろうか？、などと考えてしまう。まあ、適当に計算したのだろうな、と思うのは不信心者の証拠か。

融雪基地の建物



百万遍念仏塔

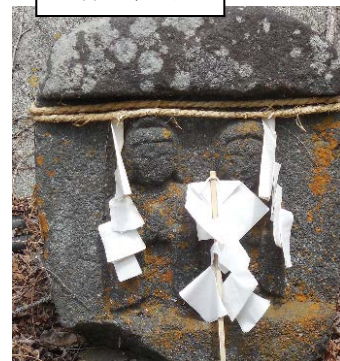


瓜生坂の石仏は、いやひょっとしたら石神かもしれないが、女神の方には赤く塗られた跡があり面白い、その近くには道祖神もあった。 昔の人は神も仏も同列だったように見える。

瓜生坂の石仏、“女神”には赤い塗料が残っている



双体道祖神



望月宿 25 番目

瓜生坂を越え、鹿曲川(かくまがわ)を越えると望月宿で、これまでの宿場には店も食堂も何にも無かったが、ここには商店街があり、時刻は 11 時半を過ぎ、朝食は 5 時頃なのでかなり空腹、まずは食堂を探し、最初の食堂に入る。 何を食べようとメニューを見たら、なんと「岩魚の唐揚げ 丼 900 円也」があり、早速それを注文。 美味しかったが、味がやや濃く、量が多く、平らげるのに苦労した。 食後にはコーヒーのサービスもあった。

望月宿には古い建物が多い。脇本陣がそのまま残っており、その隣には旅籠大和屋もある。大正時代の建物だが井出野屋旅館も目を引いた。この旅館は映画「犬神家の一族」に那須ホテルとして登場したとのこと、確かに歴史と風格を感じる



岩魚の唐揚げ井



鷹野家脇本陣



旅籠大和屋(真山家)



井出野屋旅館

間の宿 茂田井宿

相の宿とは、宿場と宿場の間の休憩の為の宿場である。小さな集落だが、綺麗な用水路が流れ、なまこ壁と美しい建物が残っており、酒屋には杉玉が吊ってあって、タイムスリップした感じ、電柱が無ければ時代劇にそのまま使えそう。



なまこ壁



杉玉を吊るした酒屋



白壁と用水路



若山
牧水
歌碑

又、茂田井宿の中程に若山牧水の歌碑があったが、一つの石に三つの歌が彫ってあり、いずれも牧水がこの地の酒屋で詠んだもの。

- ・しらたまの齒にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり・・・これは有名
- ・よき酒とひとのいふなる御園竹われもけふ飲みつよしと思へり
- ・ひとの世にたのしみ多し然れども酒なしにしてなにの楽しみ

芦田宿 26 番目

金丸土屋旅館



石割坂を越え、次の芦田宿へ。芦田宿にも古い建物が残っているが、まず目を引いたのが「街灯」。いかにも旅籠の雰囲気のある行灯のイメージ。そして現役の旅籠の「金丸土屋旅館」、この旅館は 200 年前から営業を続けている。泊まりたかったが、本日到着予定の和田宿から芦田宿に戻る交通機関がなく、諦めた。

立派な本陣も残っていて、人が住んでいるので立派な庭を見学した。

芦田宿の街灯



芦田本陣土屋家住宅



正明寺の桜

信濃路は桜は東京よりも 2,3 週間遅く、今が満開、至るところで綺麗な桜を見たが、中でも芦田宿の外れの正明寺の枝垂れ桜は見事だった。

プロ(多分? 少なくとも機器はプロ)のカメラマンが 5,6 人、色んな角度から写真を撮っていた。

正明寺の桜



笠取峠

芦田宿と長久保宿の間にあるのが笠取峠で標高 800m、上りは松並木が整備され、散歩コースになっていて、途中に石碑や道祖神があり、中でも母娘道祖神が良かった。又、小諸領と天領の堺を示す碑もあった。小諸の字を見ると信州真っ只中との感じがする。笠取の語源は、「峠を通る旅人が浅間山、を眺めるために笠を取ったから、とも、峠に吹く 強い風で笠が取れたからともいわれている」とのこと。私は後者と思う、横を走るトラックの風で帽子を飛ばされたので。



長久保宿 27 番目

笠取峠を越えると、道路沿いの山に別荘が沢山あり、不動産屋や別荘建築の看板が多く、この付近は別荘地らしい。山を降りると長久保宿。

最初に目についた旧家は個人で作った資料館で、家の前に「大八車、多分」が置いてあり、看板がかかっている、その看板の意味が分からなかった。

立派な本陣も残っているが、個人の住宅で公開していない。旧家竹内家は本陣よりも間口が広く「うだつ」が立派だった。



和田宿 28 番目

長久保から山あいを川沿いに1時間程歩くと和田宿に差し掛かる。このあたりのバス停には雨雪をしのげる「待合室」がついていて、その待合室が凝っている。普通の家スタイルのものもあったが、本物の茅葺きの屋根を載せた小屋のものと、千木を載せた神社スタイルが面白かった。

茅葺きのバス停



神社のバス停



ミミズの道祖神



更に面白かったのがミミズの道祖神。その説明板には「ミミズの碑は、この地蚯蚓に住む人々の希望により祭られました。蚯蚓は、土壌動物の代表です。蚯蚓は枯れた落ち葉や木の枝などをよく食べ糞をします。その糞は土となります。生まれたばかりの新鮮な土は植物が良く育つ土なのです。少し残酷ですが、蚯蚓の地区では「みみずのひもの(はらわたを出して板の上に貼り付けた)」を作り、解熱剤として煎じて使いました。」とある。蚯蚓と言う名前の地区があるのか、薬として使うというのは聞いたことがある。

本陣と本陣の門が復元されており、脇本陣も残っている。

宿場の外れの一里塚に道標があり、



本陣

復元された本陣の門



脇本陣



一里塚にあった道標



マンホールの蓋

八幡宿、行政的には浅科村



望月宿



茂田井宿



八幡宿(旧浅科村、今は合併して佐久市)は浅間山、千曲川、稲穂のデザイン、望月宿は、「望月の駒」とリングの花のデザイン、茂田井宿は蓼科山、白樺湖と町の花・スズランのデザイン。

芦田宿



長久保宿



和田宿



芦田宿は旧蓼科町で茂田井と同じ、長久保は地名は無いが、木はカラマツ、花はミツバツツジ、鳥はチョウゲンボウをデザイン、和田宿は和田峠を越える旅人を描いているが木曾街道となっている。

本日は和田宿にて、「民宿みや」に宿泊、到着は17時頃。このあたりは公共交通機関は極めて不便で、近場を巡回するバスしかない。最近まで和田宿に旅館があったが今は廃業、近辺唯一の宿泊施設がこの民宿。同宿は東京の人で中山道を歩いており、夕食時に瓶ビールをシェアして盛り上がった。本日の歩数は約5.4万歩、歩いた距離は約38Km。

6日目

